

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172200196		
法人名	株式会社 ウィズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・志木中宗岡		
所在地	埼玉県志木市中宗岡1-19-58		
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 3 日	評価結果市町村受理日	平成28年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 28 年 9 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念は、笑顔・安心・個性そしてチャレンジ精神のあるホームです。年間行事に力を入れています。納涼祭も地域の方々に来て頂けるようポスターをはらせて頂き来ていただきました。近隣の保育園との交流や食事レク、おやつ作りなどをご利用者様と一緒にしております。また、今年は、外のお庭でミニトマト、プランタンで枝豆の栽培を行い食事レクの際に召し上がりました。リハビリ体操、嚥下体操や散歩などをしてADLの低下を軽減できるように努めております。季節の野菜、イベント食など食べることの大切さや楽しみを今後とも続けていきたいと思っております。また、定期的に会議の中で職員のスキルアップも兼ねて勉強会を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が地域の中で1つの資源となっている。例えば、納涼祭に地域の方々の参加が有ったり、職員の家族が参加し、みこしを担ぎ、盛り上げてくれる。軽度認知症の人を雇用し、地域で暮らす高齢者を支えている。入居者は、地元の方が多く、徒歩で移動できる圏内にあるスーパー、クリーニング店、デイサービス等に職員と出向く事により、馴染みの関係が続ける事が出来ている。利用者とコミュニケーションを良く取り、意向をかなえようとする姿勢が見られる。「そばが食べたい」と言う利用者と共にそばを食べに外出したり、利用者の「綿の下着を着けたい」と言う希望に対しては、ご本人の体の状態や家族と相談しながら試行錯誤を繰り返し、意向に沿った支援を行った。職員の就業前の手洗い、うがいのチェック表が有り、感染症予防の意識の高さがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔・安心・個性・そしてチャレンジ精神のあるホームを理念とし介護職員は、なんでもチャレンジしています。	会社の理念と共に事業所独自の理念がある。フロア会議で「何を大事にして介護をするか」話し合う機会がある。利用者から「職員と話をしながら食器洗いをしたい」という要望があった時に、業務を改善して対応をした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事イベントやレクの際、ボランティアの方に来ていただいたり保育園やオーナー様のサロンの方にも来ていただいて交流しています。	散歩、買い物に出かけた時に声を掛け合う。町会の夏祭りや「オレンジカフェ」に参加し、おしゃべりを楽しむ利用者がいる。小学校、保育園と交流が有り、事業所の行事には様々なボランティアが参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域懇談会、家族会で話をしたりせせらぎさんとの交流を大切にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度行っています。地域包括、市役所の方々オーナー、ご家族様で情報共有を交換しています。	事業者から行事や利用者の様子を伝え、市役所からは催しの連絡、社会福祉協議会や地域包括支援センターからは防災訓練の手伝いの申し出が有り、情報共有している。外部評価結果報告とその対応を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課、高齢者ふれあい課やせせらぎと話をして対応しています。	地域包括支援センターや市役所に、不明点の確認や相談等をしにこまめに出向き、協力関係の構築を図っている。市主催の研修(看取りやケアプラン作成について等)には、行く事ができる職員が参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度、職員会議で話し合いをしています。	マニュアルが有る。担当職員が毎月研修を行い、行為や言葉での拘束に対する確認をしている。全体会議や申し送り時に利用者が落ち着かない理由を話し合い、センサーマットの使用や薬に頼らないケアの為に、医師と連携をしながら対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1度、職員会議で話し合いをしている。または、月々で勉強会をされる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度の研修に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時わからないことや質問をされた時、その後わからないことがあるさいは、その都度、説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に6回行っており参加率向上のためイベントに合わせたりしています。	家族からの要望はないが、行事、家族会開催時、面会時に管理者や職員が、家族に声かけをしている。意見箱、運営推進会議の出欠の返事の手紙を利用し、家族の意見を聞く機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議、フロア会議にて話し合いをしています	管理者は申し送り時に職員の話を聞く機会がある。事業所単位で作成する書類や、家族との連絡を1つのファイルにまとめた「介護支援ノート」は、職員の意見を反映して、作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の自主性を尊重しうまくいかない場合には、助言しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の自己啓発研修や外部研修に参加し職場会議で勉強しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流会に参加して職場会議などで話し合いをしています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望に応じできる範囲で行っています。なるべく安心して頂ける環境づくりを心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話やお手紙を通して話を伺って対応しています。家族会を通じ要望を伺っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	シニアセラピーや訪問リハビリを利用するよう支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の手伝いが行えるご利用者様には掃除や洗濯もの干しやたたんで下さったり食器拭きをしたり一緒にやつ作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の意見やご家族様と相談しながら楽しく生活できるように支援しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が元々地域の方が多く近隣のデイサービスや友人も面会に来て散歩に行かれたり以前働いていた職員と連絡したりしている。	利用者は友人が来訪する日を、とても楽しみにし、身づくろいをして待っている。家族との墓参りや旅行の支援を行う。以前行っていたスーパーやクリーニング店に職員と行き、近隣の方々に声掛けをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が交流でき誰でも参加できるようなレクの工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が必要に応じ対応しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や行動から思いをくみ取りケアに取り組んでいる。ご家族様より面会時などに話し合いをしている	日々の会話の中から、意向を汲み取っている。映画を見た後、それに関連した食べ物を利用者に聞き、提供した。フロア会議で、利用者、家族の意向を話し合う時に、利用者の立場に立って共有をしている。	個々人の生活歴の中から食の好み、生活の仕方等を把握し、さらなる個別支援を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査を基にできる範囲での掃除や洗濯干しや畳みものや家庭菜園などをして頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気になることはご利用者様とお話する時間を設け異常がある場合などは職員同士で話し合いをしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議などでカンファレンスを行いご利用者様、ご家族様の意向に沿った計画書の作成をしている。	居室担当制を取り、3ヶ月毎に見直しを行う。フロア会議で全員でモニタリングをする。家族の意向は面会時や電話、事業所からの「一言通信」で伺い、相談をしながら、利用者の思いに沿うプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用や口頭での申し送り等で情報の共有をし1カ月に1度以外にも変化がみられる場合はケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	シニアセラピーや訪問リハビリの利用を提示したり体験してもらっています。場合によっては訪問看護も取り入れたり訪問クリニックの変更も相談受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にある商店街や公園、保育園との交流、花屋で苗を買い外のお庭で水やりをする際、せせらぎの小道を歩かれている方とのたわいもない会話などをできる範囲で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療をはじめ、訪問看護・歯科医師・歯科衛生士の訪問により健康管理をしています。体調がすぐれない場合など臨時往診で診て頂くこともあります。	入居時にかかりつけ医を選ぶ事が出来る。訪問診療の結果は、面会時や随時連絡をする。精神科の通院は職員が同行する。他科の場合は家族に生活記録を預け、日常生活を伝えて医師との情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護・あやクリニックに連絡または診て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なるべく週1ペースで面会に行き病院の方よりお話を伺ったりご家族様との連絡も行い訪問看護又は、あやクリニックとの連携を取り早期退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者がご家族様に説明し訪問クリニックの変更や次の施設の申し込み医療依存が強い場合などは弊社特定に転居を勧めています。	マニュアルが有る。看取りの経験は無いが、本社と共に、事業所内で見取りに向けた勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡簿を使うようにしている。また、定期的に勉強会を(AED等)行っています。管理者、ご家族様、訪問医師に連絡し対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施しています。緊急時に備え勉強会や緊急連絡網を各階に貼って連絡を取り合っています。	避難訓練は昼、夜想定で(1回は消防署員立ち合いの元)行い、参加できる利用者と共に水消火器訓練や、利用者の避難経路についての話し合いを行った。備蓄品の用意や職員連絡網の作成をし、訓練を行った。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時排せつ時には特に気をつけています。居室に入る際、出る際声かけノックをしています。年に2回個人保護法の勉強会を職員の中でしています。	勉強会以外に、会議等で随時話し合いを行う。利用者に対する言葉使いについて、気になった時はその都度注意を促している。職員の申し送りはスタッフルームで行い、個々のプライバシーに対する配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるご利用者様には希望に沿い外出やおやつの買い物をしたり選んで頂いています。自己決定できない場合でも昔好んでいた食べ物等の提供をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる範囲できる限りご利用者様のペースに合わせた生活をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で更衣される方は、ご自身に任せております。化粧水等もスタッフルームで管理ですが訴え時はお出してつけて頂いております。介助の方も介護職員が気にかけて起床時に整容を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食、ご当地メニュー、年に数回ですがご利用者様に食べたい物を聞き手作りの昼食、月数回ですがホットケーキ等のおやつ作りなど、またお皿拭き等のお手伝いをして頂いています。	事業所内で夏野菜を育て、収穫をした。会話の中から好みの物を聞き、ノンアルコールビールと浅漬けを提供して、喜ばれた。利用者の状態に応じ、食器洗いやおやつレクの準備や盛り付けを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量が分かるよう記録をとり健康状態を把握しています。ご家族様にゼリーなどを持ってきて頂くなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でケアされる方も一部介助の方も仕上げの際、介護職員が歯間ブラシやスポンジを使い行っています。体調の変化に応じて衛生士さんにお聞きしケアを変えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にお声かけしトイレ誘導に努めている。オムツ対応の方でも立位が取れる方には、トイレやPTイレの使用をしている。	定時誘導を行うが、排泄パターンや行動を見守りながら声掛けをする。パット等の使用時は利用者、家族と話し合いをし、対応をしている。夜間時はポータブルトイレを使用し、便座での排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬でのコントロール、乳製品を摂って頂く。腹部のマッサージ、体操などを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用様の体調や希望に沿い入浴している。バスクリンを使用したり時期によって季節感を味わってもらっています。	利用者の状態に応じ、同性介助や二人介助、希望に沿った時間で入浴する事が出来る。1階浴室がリフト浴対応となっており、湯舟をまたぐのが困難な利用者も、肩まで湯につかる事が出来、喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用様に合わせ昼寝をしてもらったり夜間は定期的にパッド交換し気持ちよく休んで頂けるよう寝れない際は、TVを介護職員とみたり傾聴したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を見たり看護師に聞いたりしています。新しく処方された薬に関しては、特に要観察し別に記録を取らせて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせたお手伝い、レクへの参加。家庭菜園、書道、縫物などを付添にて行っています。また、定期的に散歩をして気分転換しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲で近隣の公園や買い物に行っています。利用者様の状態に応じ外気浴、ご家族様の協力のもと外食や散歩に出かけています。	散歩は1対1で近隣の公園や、事業所の周りを散策する。体調により外気浴を行う。屋内と違う空気の流れや、歩いた時の感触が違っていると喜ばれている。徒歩で行ける範囲にドラッグストアやスーパーが有り、職員と共に個別の買い物に出る。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理がご自身でできる方に関してはお財布ごと持っています。金額が少しの場合は、介護職員見守りのもと買い物されます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用やホームの電話を使用しご家族様と連絡してもらう。また、ご自身で字をお書きになられる方には、一言通信などに書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物の作成、装飾をしております。掃除管理表を使用したり環境改善を行っています。	廊下突き当りにソファとマガジンラックがあり、利用者が自由に過ごせるスペースになっている。季節毎に職員と一緒に装飾を作り、壁に貼っている。掃除は洗面台や床のホコリ取りなど利用者の出来る所で参加して頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に一人でTVを居室でご覧になられたり気の合う方と各居室で話をしたり将棋をしたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものをご家族様と相談しながら使用して頂きレイアウトはご利用者様の過ごしやすいようにして頂いている。またぬいぐるみや仏壇なども持ち込んできて大切に介護職員が掃除や洗濯している。	自宅で使用していた物を持ち込まれている。利用者の状態の変化に応じ、安全面に配慮した支援をしている。居室では2,480ピースのパズルの作成や自分のペースで午睡をしたり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前には、トイレの貼り紙をしたり居室に名前えを貼りわかりやすくしている。また耳が聞こえない方にもわかるようボードを用意している。		